

授業科目名	和文：天体観測入門－太陽・月・惑星－ 英文：Introduction to Astronomical Observation:			時間割	水 7-8
科目コード	503-0050	必修・選択	選択	単位・時間数	1・
受講対象学生	1年次以上				
授業の形式	実習	備考	受講可能な人数は20名程度。天体望遠鏡の数と安全管理上の問題から上限が設定されています。受講希望者数が多い場合は抽選で受講を許可することになります。受講規模者は必ず初回に参加すること。		
履修する際に前提とする授業科目名	なし				
内容的に密接に関係する授業科目名	なし				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
林 信太郎	教文	3-311・889-2651			
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 1-4 コマ			場所：教育文化学部 3-310		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 天体に親しみ、惑星科学・地球科学について学ぶ。 2. 到達目標 天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡操作でき、人に説明できる。 簡単な望遠鏡を作成できる。 月の形成史を理解し説明することができる。 惑星の地形からそのなりたちを推論することができる。 主な惑星の特徴と軌道を理解し、説明できる。 太陽の自転を理解し、説明できる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 惑星科学、宇宙科学の教養的知識を得る					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 天体の状況、天候の状況によって異なってくる。以下の内容を予定している。 ・天体望遠鏡の使い方 ・月の地形の観察（4月から6月の中旬の晴れた夜） ・木星・土星の観察（4月中 夕方7時～8時） ・木星の衛星に関する演習 ・水星・金星の観察（6月中；夜明け前に1時間ほど観察） ・太陽黒点の観察・演習 ・部分月食の観察（9月8日午前3時頃より観察） ・火星（観測条件が悪いので今年度は実施せず） 天体の運行状況や天候によって授業時間がきまるので正規の時間に実習の行われることの方が少ない。夜間・早朝の実験が多く場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある。天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）。 また、前期の前半だけでは実習が終わらず、9月前半までもつれ込む予定。 なお、授業の正規の時間帯で行う実習は2時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。					
授業に関連するキーワード	天体望遠鏡	月	太陽		
惑星	黒点	火星	月食		
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> レポートによる。 出席数が2/3に満たない場合は放棄とする。					
<b>教科書・参考書等</b> 授業の中で紹介する					

授業科目名	和文：環境と社会A－地域環境とインフラストラクチャー A 英文：Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure				時間割	木 7-8	
科目コード	503-0183	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に係る授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
木村一裕	工学資源学部	工資 6-7F 教官ゼミ室 2368	川上洵	工学資源学部	工資 1-414 2366		
石井千万太郎	工学資源学部	工資 6-5F 教官ゼミ室 2361					
薄木征三	工学資源学部	工資 1-410 2357					
オフィスアワー 曜日及び時間：講義終了時にアポイントを取って下さい。 場所：各教室							
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例について履修する。							
2. 到達目標 1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、および水環境・生活環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
授業の概要と進行予定及び進め方 第1～2回：社会資本とは何か、その分類と理念について 第1～2回で学んだことを具体的例示として、第3回以降で講義する。 第3～4回：社会資本整備で不可欠な材料（コンクリート）について、特に環境にやさしいコンクリート施工 第5～6回：環境にやさしい木材（集成材）および長持ちする鋼材を用いた社会資本整備について 第7～8回：水環境と生活環境について							
授業に関連するキーワード	人間	社会的理念	社会基盤				
社会資本整備の理念	生活環境						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
レポート（50％）ディベート（10％）その他出席状況等（40％）を考慮して総合的に評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							

授業科目名	和文： 欧米の歴史—スイス学のススメ— 英文： European and American Histories:Introduction to the Helvetica				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0270	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	1,2 年次						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
斎藤 泰	欧米文化	3-236・889-2666					
オフィスアワー 曜日及び時間： 月～木、9:00～17:00			場所： 3-236				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 「スイス学のススメ」という講義題目で、ヨーロッパの小国スイスの歴史と文化について、スイスの古代から中世までの時代に限定して、多角的に論じる。EUの新しい動きを捉える重要な視点として、「国家形成の連邦制」、「多言語・諸地域の並存」に注目し、その具体例を、スイスの国家形成と言語・地域文化から、具体的に論じる。 2. 到達目標 ヨーロッパ史の新しい視点を紹介しながら、ヨーロッパ文化の「基底」にあるものは、何か、を探る。具体的な論点は、◎ヘルヴェティア（「スイスにも、長い歴史がある」）、◎4つの国語（「スイスは、4つの言語の並存からなる」）、◎連邦制（「スイス連邦は、永久同盟からはじまる」）であり、到達目標である。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 日本やアジアの歴史や文化と関連しており、日本史やアジア史の授業があれば、これらと相互関連させながら、学ぶことが望まし。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 次の編別構成で、15回に分けて講義する。 はじめに—EUとスイス— 第1章 ヘルヴェティアとラエティア—先史時代のスイス— 第2章 「ヘルヴェティア」—古代ローマ時代のスイス— 第3章 「4つの国語」のはじまり—中世初期のスイス— 第4章 フランク王国の盛衰と「スイス」 第5章 スイスにおける有力貴族の台頭 第6章 中世スイスにおける都市と溪谷 第7章 スイス連邦のはじまり おわりに ☆ノートを作成させながら、授業を進める。専用ノート、糊、ハサミ、カラーペンシルを持参のこと。半年間で、誰にも自慢出来る、カラフルで。完璧な「スイス史ノート」が完成する。「スイス建国史跡めぐり」の特製ビデオを放映する☆							
授業に関連するキーワード	スイス学	ヘルヴェティア	ラエティア				
溪谷共同体	永久同盟	八州同盟	テル伝説				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験（学期末）、ノート点検、毎回取る出欠の結果を総合して、評価をする。再試験なし。毎回、出欠を取り、出席を重視する。それぞれの記号は100点を満点としたとき、A・・・80点以上、B・・・70点以上80点未満、C・・・60点以上70点未満、D・・・60点未満を表します。							
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。							

授業科目名	和文：心理学Ⅰ－心の科学史－ 英文：Psychology I: Introduction to Psychology				時間割	月 3-4	
科目コード	504-0010	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1年生						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	受講希望者が150名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。						
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
中野良樹	教育文化学部	教5-402 2591					
オフィスアワー	曜日及び時間：金曜日 14:30～17:30			場所：研究室			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけて理解する。 2. 到達目標 1) 認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。 2) 人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 認定心理士必修科目							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 心の科学への招待－ガイダンス 第1部 「知」の科学 2. 視覚の冒険－視覚情報処理 3. 人はいかにして世界を知るのか？(1)－パターンの認知 4. 人はいかにして世界を知るのか？(2)－空間の認知 5. 思い出をつくるメカニズム－短期記憶と長期記憶 6. 「忘れる」ことの幸せと不幸せ－記憶と忘却と健忘 第2部 「意」の科学 7. 人間は動物と同じなのか違うのか－条件づけの基本原則 8. 動物はどこまで賢くなれるか？－条件づけと動物実験 9. 人間の賢さと愚かさ－思考 10. 「意識」はどこで生まれるのか？－前頭葉と作業記憶 第3部 「情」の科学 11. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？－感情をめぐる議論 12. 「あたまと「こころ」の関係－感情と認知の協調と競合 13. 喜怒哀楽の中核－感情と脳 14. 心の発達と進化 15. あなたたちは人の心を理解できたか？－試験							
授業に関連するキーワード	認知心理学	生理心理学	感情心理学				
心と脳							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 授業中に実施する複数回のレポートと最終の試験によって評価する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価し(到達目標の2)、試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める(到達目標1)。レポートと試験の総点が60点以上の受講生に単位を認める。							
<b>教科書・参考書等</b> 教科書 「グラフィック心理学」(サイエンス社) 参考書 「サブリミナル・マインド」 下條信輔著(中公新書)							

授業科目名	和文：教育学ⅠA－現代社会と教育－ 英文：Pedagogy IA:Modern Society and Education				時間割	火 7-8
科目コード	504-0151	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部1～3年生					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
対馬達雄	学校教育課程	教文5-508, 2546	佐藤修司	学校教育課程	教文5-509, 2541	
新井真人	学校教育課程	教文5-505, 2542	池田全之	学校教育課程	教文5-506, 2544	
浦野 弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター, 2698	原 義彦(貴)	学校教育課程	教文5-507, 2545	
オフィスアワー	曜日及び時間：			場所：		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育史学、教育社会学、教育法学、社会教育学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。 2. 到達目標 教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 教育学関連科目の導入的位置にある。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. ナチズムと反ナチズム教育：ナチズム教育に対抗して独自の教育実践を行ったアドルフ・ライヒヴァインおよびヤヌシュ・コルチャックの思想と行動を取り上げる。(対馬達雄) 2. 教育問題としての非行：教育は常に成功するとは限らない。親や教師の期待に反する青少年が形成されることもある。ここでは、「非行」と呼ばれる逸脱行為に走る青少年の実態と形成について学ぶ。(新井真人) 3. 情報化社会におけるリテラシー：国は、2010年に「ユビキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan 政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。(浦野 弘) 4. 教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。(佐藤修司) 5. ヨーロッパ近代と理性の関係を、理性主義の限界と感性の復権の立場から論じ、現代人の故郷喪失、疎外状況を考察する。そして、同時に新しい人間理解のあり方を学ぶ。(池田全之) 6. わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。(原 義彦)						
授業に関連するキーワード	A. ライヒヴァイン	教育的抵抗	社会化と逸脱行為			
コンピュータ・リテラシー	情報処理	近代的理性	生涯学習			
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> レポート、試験、出席等を総合して評価する。						
<b>教科書・参考書等</b> アルムンク『反ナチ・抵抗の教育者ライヒヴァイン1898-1944』昭和堂						

授業科目名	和文：教育学ⅡA－地域社会と子育て支援－ 英文：PedagogyⅡA:Child care support in Local Community				時間割	木 3-4	
科目コード	504-0156	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座	教文 5-308・889-2677					
オフィスアワー 曜日及び時間： 随時			場所： 教文 5-308				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 近年、必要性が叫ばれている「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。特に、これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 2. 到達目標 保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持ち、自らの課題をとらえて考察する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会との関係や、地域社会の教育機能について考える。 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化が、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。 3. 家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 4. 幼稚園・保育所の機能 保育所や幼稚園は、これ間何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。 幼稚園はなぜ3歳からの入園なのか。 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。 誰が誰を支援する？ 6. 少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情 子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代 家族の実情、幼保一元化、総合施設など 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ニーズに 応じる保育”を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。							
授業に関連するキーワード	育児	地域	家庭				
子育て支援							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出欠および授業への参加姿勢 30% 課題レポート 70%							
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて随時紹介する。							

授業科目名	和文：教育学ⅡB－地域社会と子育て支援－ 英文：Pedagogy IIB:Child care support in Local Community				時間割	木 3-4	
科目コード	504-0157	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座	教文 5-308・889-2677					
オフィスアワー 曜日及び時間：随時			場所：教文 5-308				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 近年、必要性が叫ばれている「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。特に、これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 2. 到達目標 保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持ち、自らの課題をとらえて考察する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。 家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 幼稚園・保育所の機能 保育所や幼稚園は、これ間何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。 4. 幼稚園はなぜ3歳からの入園なのか。 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。 誰が誰を支援する？ 6. 少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情 子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代 家族の実情、幼保一元化、総合施設など 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ニーズに 応じる保育”を、“ニーズを育てる”観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。							
授業に関連するキーワード	育児	地域	家庭				
子育て支援							
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 出席および授業への参加姿勢 30% 課題レポート 70%							
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて随時紹介する。							

授業科目名	和文：表現と人間 I A－対人・対話・対応－ 英文：Human Expressions IA:Human Relations				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0041	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～2 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐々木久長	医学部	884-6506					
オフィスアワー 曜日及び時間：			場所：				
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる 人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる 2. 到達目標 1. 人間関係の主体者としての自己理解を深める 2. 対人コミュニケーションの構造を理解する 3. 実際の対人関係の背景にある心理を理解する 4. 傾聴について理解し実践を試みる							
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 人間関係の主体者としての自己 2. 人間の存在性について 3. コミュニケーションについて 4. 傾聴について (1) 5. 傾聴について (2) 6. 受容と拒否 7. 援助と攻撃 8. 依存と自立 9. 家族という関係 10. 友情について 12. 個人と集団 13. 対人関係の健康と病理 14. テスト 15. 全体のまとめ							
授業に関連するキーワード	自己理解	他者認知	コミュニケーション				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 定期試験 (80%) + 出席 (20%)							
<b>教科書・参考書等</b> 参考書 1) 吉森護編著 人間関係の心理学ハンディブック 北大路書房 2) 対人行動学研究会編 対人行動学ガイド・マップ プレイン出版							



授業科目名	和文：表現と人間ⅡA－教育表現論－ 英文：Human ExpressionsⅡA:Communication in Japanese				時間割	月 7-8
科目コード	504-0143	必修・選択	選択	単位・時間数	1・8	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部2～4年					
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
阿部 昇	教科教育学		教文3-138 / 2618			
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日16時10分～17時40分 場所：阿部研究室（教文3-138）						
<b>授業の目的及び到達目標</b>						
1. 目的 ディベートの演習を通して、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていくことを目指す。						
2. 到達目標 (1) 質の高いディベートが展開できるようになる。 (2) 論理的思考力を身につけ高めていく。 (3) 批判的思考力を身につけ高めていく。 (4) 対話能力・説得力等を身につけ高めていく。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>						
本授業は、論理的思考力、批判的思考力、対話能力、説得力等を身につけていくことを目指している。そのため、ここで身につけた力が多くの授業の基礎的な能力として生きていく。						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>						
ディベートの準備、実施、ジャッジ、記録、リフレクション等の実習を中心として授業を進めていく。						
第1回 ディベートの紹介（ビデオ視聴を含む） 第2回 マイクロ・ディベート：その1 第3回 マイクロ・ディベート：その2 第4回 ディベートのスキル、ジャッジの方法、フローシートの書き方等の学習 第5回 本格ディベートの準備：その1（リサーチ・スキルの学習を含む） 第6回 本格ディベートの準備：その2（プランシートの書き方の学習を含む） 第7回 本格ディベート：本番 第8回 まとめ						
授業に関連するキーワード	論理的思考力	批判的思考力	対話能力			
説得力	立論	反駁				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>						
授業での活動、レポートなどによる。出席状況を重視する。 以下の要件を満たした者に単位を認定する。 (1) 出席率が良好であること (2) ディベート演習に積極的に参加すること (3) 指定されたレポートを提出すること						
<b>教科書・参考書等</b>						
授業の中で紹介する。						

授業科目名	和文：文学論A－教養読書基礎講義－ 英文：Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading			時間割	金 3-4
科目コード	504-0061	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～3年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
成田 雅樹	教育文化学部	3-139・2531			
オフィスアワー 曜日及び時間：曜日及び時間：月木金曜日 12:50～16:00 場所：教育文化学部 3-139（電話：889-2531）					
<b>授業の目的及び到達目標</b>					
1. 目的 (1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 (2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。					
2. 到達目標 (1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 (2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。 (3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b>					
文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>					
1 (4/14) 回…オリエンテーション 2 (4/21)～4 (5/12) 回…明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。 5 (5/19)～6 (5/26) 回…大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。 7 (6/2)～8 (6/9) 回…大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。 9 (6/16) 回…昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。 10(6/23)～11(6/30) 回…昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。 12(7/7)～13(7/14) 回…現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。 14(7/21) 回…現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。 15(7/28) 回…試験					
※ 2～4回、7～8回、12～13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし、2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。					
<b>授業に関連するキーワード</b>	同化と異化	観想的態度	メタファー		
物語スキーマ	視点	芸術的価値と内容的価値	表層と深層		
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b>					
出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。(出席が2/3に満たない者、提出物の提出回数が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業中の取り組みに問題がない場合：C、出席及び提出物が数・内容ともほぼ完全な場合：B、Bの者で提出物の内容が優れ、授業の到達目標に十分達していると認められる場合：A、追試・再試は行わない。)					
<b>教科書・参考書等</b>					
授業中に読むテキスト（原作の文章）及び資料は印刷して配布する。					

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅱ－言語と人間－ 英文：Cultures in Japan and Asia II:				時間割	金 9-10
科目コード	504-0101	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部1～3年					
授業の形式	講義・学生参加型	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名	日本文化基礎論■／■ 日本語学 日本語の諸相					
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
佐藤 稔	教文 日本・アジア文化	教文3-134・2613				
オフィスアワー	曜日及び時間：金曜日 昼休み			場所：教文 3-134		

## 授業の目的及び到達目標

### 1. 目的

言語と人間の関わりを軸にして、日本語文化の特性を認識する。

特に、身のまわりの身近な事例に基づいて、言語の運用・コミュニケーションの機微 について学ぶ。  
言語使用によって人間関係の円滑な構築・修復が出来るためにはどんな技能が必要かを考える。

### 2. 到達目標

- (1) 日本語文化が過去から継承してきた遺産、現状、および未来について、個々人が 所属する集団におけることばの具体的な事象から考察する。「ことばにはそれぞれ 通用範囲がある」という認識を確実なものとする。
- (2) ことばの規範に対する意識をもち、言語運用上の技能を高める。

## カリキュラム上の位置付け

教養教育科目 [目的・主題別科目] の「人間発達と文化」の1つとして設定。

## 授業の概要と進行予定及び進め方

### 1. 日本語社会が抱える諸問題

- 1.1 日常茶飯事化する異文化との接触
- 1.2 通じないカタカナ語
- 1.3 誰のための略語?
- 1.4 「経済力」と言語学習意欲との関係
- 1.5 マイノリティの言語状況

### 2. 差別とことば

- 2.1 「差別語」は悪か?
- 2.2 差別語を言い換える試み
- 2.3 差別語を無くすことは可能か?
- 2.4 ジェンダーとことば

### 3. 通用範囲の限られたことば (ジャルゴン)

- 3.1 若者専用語・キャンパスことば・ギャル語
- 3.2 隠語・業界語
- 3.3 学術用語・専門語

### 4. 方言 (地域語) の衰退と復権

- 4.1 年寄りと若者のことばの壁
- 4.2 モノの消失とことばの消滅
- 4.3 文化財?文化??

### 5. 「敬語」社会に生きる

- 5.1 敬語が「正しく使える」とは?
- 5.2 敬語の社会的機能
- 5.3 敬語チェッカーあなたの敬語はだいじょうぶ?—
- 5.4 理想の敬語

(以上、実施順序には変更があり得る)

授業に関連するキーワード	言語	日本語	差別語
ジャルゴン	方言	敬語	言語文化

## 成績評価の方法及び合否判定基準

各回での発言、講義への出席状況、レポートによる。

出席は15回実施するもののうち3分の2を下回った場合、「放棄」と見なす。

レポートは、手書きの場合は読みやすい文字で、丁寧に書いて提出すること。紙型は A4サイズ。プリンタで印字の場合の紙型も、A4サイズ。1頁当たり40字×40行が望ましい。

## 教科書・参考書等

教科書：なし。

参考書：教室で必要に応じて紹介する。

出来るだけレジュメとなるプリントを配付する。

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅴ－東洋思想史－ 英文：Cultures in Japan and Asia V:History of Oriental Thought				時間割	木 1-2	
科目コード	504-0131	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	中国文化論、アジア史						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
吉永 慎二郎	日本アジア文化	3-130 2609					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 7～8時限			場所：3-130				
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 アジア諸文明圏における思想史的テーマについての理解を深め、今日のアジア、世界を見る方法的視座と知見を得ることを目的とする。							
2. 到達目標 上記の思想史的テーマ及びそれに関連する知識や知見について理解し習得するとともに、今日のアジア、世界について自ら思考する糸口を把握する。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
総合基礎教育の教養科目であるとともに、中国文化論（思想史）への導入としての位置づけをも持つ。							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
一般的に考えられているほどに中国文明は他の影響と無関係に自立的に展開してきたわけではない。例えば、麦の生産・彩陶・青銅器・鉄器などの技術や知識はいずれも、西方から伝播している。高度技術の伝播はしばしば民族の移動と文明の融合と再生を伴う。歴史的にはそれは三つの大きな思想変革として把握しうる。一つは殷から周への王権交代（殷周革命）の際の天の思想の形成とその後の諸子百家の思想の展開と開花であり、二つは仏教思想の伝播による儒教的中華思想の相対化という衝撃とこれを受けての朱子学の形成であり、三つは西洋近代文明の衝撃と近代化（西洋文明の受容と近代国家の建設）への思想展開とである。本講義では、これらの思想史的テーマを西アジアや日本をも含めた東洋及びユーラシア的視座から考察を加え概説する。							
1. ユーラシアと中国文明      2. 米の文明と麦の文明      3. 殷文化と帝の思想 4. 天の思想と周王朝      5. 天と孔子の思想      6. 天と墨家の思想 7. 天と孟子の思想      8. 老荘思想と帝 9. 荀子と韓非子と黄老思想      10. 儒教の国教化 11. 仏教と六朝・隋・唐      12. 仏教と日本古代国家 13. 朱子学の形成と展開      14. 中国文明と近代化 15. テスト							
授業に関連するキーワード	文明の伝播と民族移動	文明と文化	帝と天				
地下型他界観と天上型他界観	諸子百家と儒教の国教化	仏教と朱子学	近代化と現代化				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
テスト（80％）により、出席点（20％）も加味して100点満点とし、60点が合否判定基準となる。テストは、その回答結果が授業内容の基本的理解と習得を示すものとなっているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか、などが評価基準となる。追試験なし。							
<b>教科書・参考書等</b>							
宮崎市定『中国文明史』上・下（岩波全書）、ヴォルフラム・エーバーハルト『中国文明史』（筑摩書房）、森三樹三郎『中国思想史』（レグルス文庫）、加地伸行『儒教とは何か』（中公新書）、吉永慎二郎『戦国思想史研究』（朋友書店）、中村元『パウダ・仏教』、山下龍二『朱子学と反朱子学』（研文社）、トーマス・ホップズ『リヴァイアサン』（岩波文庫）、山内得立『ロゴスとレンマ』（筑摩書房）、ヘンリー・フラン克福ォート『古代オリエント文明の誕生』（岩波書店）、福永光司『道教と日本文化』（人文書院）など。その他随時教室にて指示。							

授業科目名	和文：芸術と文化 III A－絵画にみる音楽と文学の照応－ 英文：Art and Culture IIIA:			時間割	木 5-6
科目コード	504-0223	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～2年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に係る授業科目名	アジア美術表現論				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
猪巻 明	美術教育	教文 1-315・2556			
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜日 16:00～18:00			場所：教文 1-315	
授業の目的及び到達目標					
1. 目的 芸術の融合（文学，絵画，音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。 ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲，交響詩，舞曲，歌劇，楽劇，歌曲，童謡，歌謡曲，邦楽，その他）を比較しながら，作品の時代背景と，画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。					
2. 到達目標 1) 近代の西洋音楽が文学（詩，小説，戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2) 西洋美術史の中で，イタリアルネッサンス（15世紀），フランスロココ王朝時代（18世紀），フランス象徴派・印象派（19世紀），イギリスラファエル前派（19世紀末），ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭），フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3) 日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え，その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して，説明できる。 4) 近代日本画の中には日本の歌（歌曲，童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ，この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して，説明できる。 5) 邦楽と浮世絵，近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対応により，日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して，説明できる。					
カリキュラム上の位置付け					
履修する際に前提とする授業科目は特にないが，美術と音楽に全く興味のない人には，大変退屈な授業です。内容的に密接に関連する授業としては「アジア美術表現論」がある。					
授業の概要と進行予定及び進め方					
CD，ビデオ等（音楽）拡大投影機，スライド，ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。 1 レスピーギ「交響詩ボッティチェルリの三枚の絵」（春，東方三博士の礼拝，ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩海」ストラヴィンスキー「春の祭典」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」シャガールが描いたパリ，オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」モーリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R. シュトラウス「サロメ」モローの「雅歌」と先代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネッサンス・フィレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「月の光」フォーレ「月の光」ラヴェル「草の上」ホフマン「舟歌」ラヴェル「夜のガスパール」 18世紀フランスロココ王朝時代のうるわしい美人画とその影響がみられる1870年代のルノワール作品 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 8 ラフマニノフ 交響詩「死の島」ワーグナーとベックリン，ワーグナーの楽劇と絵画 9 マーラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学，医学，法学」とマーラーの第8交響曲 クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマーラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 10 ピバルディ「四季」暦絵とプリューゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 11 プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 12 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 13 日本の歌と近代日本画作品（20作品）山田耕柝「この道」と山本丘人「残夢抄」堂本印象「坂」三浦文治「動物園行楽図」 14 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり，石川さゆり，小林幸子，その他 15 邦楽の世界，鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」，鏑木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊					
授業に関連するキーワード	ボッティチェルリ	ドビュッシー	ラヴェル		
鈴木春信	シャガール	クリムト	山本丘人		
成績評価の方法及び合否判定基準					
出席を前提とした，3回のレポート（授業5回につき1回のレポート）の評価100%					
教科書・参考書等					
毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。 参考書 種村季弘訳「象徴主義と世紀末芸術」 河村錠一郎著「ピアズリーと世紀末」 高階秀爾著「名画を見る眼」「ルネッサンスの光と闇」「美の回廊 ドラクロワからミロまで」					

授業科目名	和文：哲学の世界Ⅰ－哲学入門－ 英文：Philosophy I:Introduction to Philosophy				時間割	月 5-6
科目コード	504-0392	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部 1～3 年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
勝守 真	国際コミュニケーション	教文 3-228・2648				
オフィスアワー	曜日及び時間：		場所：			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>  						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 私たちは、朝目覚めると、それまでの睡眠中の「現実」がじつは夢だったことに気づく。とすれば、今のこの現実も、ひょっとすると夢ではないだろうか？ この授業、このシラバスも、またそれを読んでいるあなたも？ ところで、それはいったい「だれ」の夢？ この授業では、主として西洋哲学の歩みをたどりつつ、神、「私」、言語、社会といった諸問題を考察する。						
授業に関連するキーワード						
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b> 試験						
<b>教科書・参考書等</b>  						

授業科目名	和文：哲学の世界Ⅱ－科学史・科学哲学－ 英文：Philosophy II:History and Philosophy of Science				時間割	月 1-2
科目コード	504-0393	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に係る授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
勝守 真	国際コミュニケーション	教文 3-228・2648				
オフィスアワー	曜日及び時間：				場所：	
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的  2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b>						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 雨はなぜ降るか？ 「水蒸気が凝結して水滴が集まって……」というふうに、近代の科学者は答えるだろう。でも、たとえば、「雨が降るのは、大地がうるおって草木が育つためだ」と答えては（なぜ）いけないのか？ なぜこの種の語り科学から排除されるのか？ この授業では、科学思想の歩みを 20 世紀のアインシュタインまで歴史的にたどり、哲学的に考察する。						
授業に関連するキーワード						
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 試験						
<b>教科書・参考書等</b>						



授業科目名	和文：倫理と人間A－ヘブライズムの倫理思想－ 英文：Human Ethics A:Lecture on Hebrew Ethical Thought			時間割	木 5-6
科目コード	504-0261	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～4年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
立花 希一	教育文化学部	教文3-127・2608			
オフィスアワー	曜日及び時間：講義、会議以外随時		場所：研究室		
<b>授業の目的及び到達目標</b>					
1. 目的 異質の世界観との出会いを通して、自らの世界観を構築する際の足掛かりを探ること					
2. 到達目標 聖書を自分なりの読み方ができるようになること					
<b>カリキュラム上の位置付け</b>					
西洋文化の基礎、倫理学の基礎。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>					
主として旧約聖書の五書を読む。 授業は概ね以下の通りである。 ガイダンス（聖書について） 神とは イスラエルの歴史 創造（創世記1章） 原罪（創世記3章） カインとアベル（創世記4章） アブラハム（自律と他律、創世記18章、22章） 決定論と自由論（創世記37章～出エジプト記） 十戒（出エジプト記20章） 黄金律（レビ記19章） 砂漠の二人（同上） 預言書 諸書（コヘレトの言葉） 聖書を読み、議論しながら授業を進めていく。					
授業に関連するキーワード	理性と信仰	神	自律と他律		
キリスト教とユダヤ教	黄金律	利己主義と利他主義	個人主義		
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>					
9回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。9回未満はその時点で単位の取得ができないので注意すること。成績評価は試験による。首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。					
<b>教科書・参考書等</b>					
新共同訳『聖書』（日本聖書協会） 参考書は授業の中で紹介する。					

授業科目名	和文：情報と知識・技術A－情報リテラシー 英文：Information Processing A:Information Literacy for Library Use			時間割	木 5-6
科目コード	504-0287	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15
受講対象学生	全学部				
授業の形式	講義・演習	備考	人数制限あり(先着70名)		
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	図書館特論, 図書館サービス論, 図書館経営論				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
石川 三佐男	教育文化学部	2610			
オフィスアワー	曜日及び時間：		場所：		
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 人類が蓄積した膨大な図書情報, 最新の専門分野の論文情報, 現代社会の各種情報を各自の勉学や卒業研究を含めた知的活動に役立てるため, 秋田大学及び全国の大学の図書及び専門論文データベースの構成並びにインターネットの概念などを理解すると共に各種検索システムを利用して目的の情報を効率的に得る方法を学ぶ。また, 調査収集した情報を解析, まとめてレポートを作成する方法を学ぶ。 2. 到達目標 1) 秋田大学の図書検索システムの概要を簡単に説明できると共に, システムを利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 2) 全国の大学図書館等の蔵書検索システムを利用し必要な資料を検索できる。 3) 各種データベースから情報や論文を検索できる。 4) インターネット上の検索エンジンを利用した情報検索ができる。 5) 任意のテーマについて, 上記手法により情報を収集し, 調査研究すると共に, 結果をレポートにまとめることができる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 課外の学習を進めるに当たって, 図書館の利用, 即ち図書情報の利用に習熟することは必要不可欠であり, その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また, 教育文化学部における, 学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 図書館情報学概論 講義：学術情報全般についての概論(附属図書館長) 講義内容全般に関するガイダンス 2. 秋田大学附属図書館で所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習(図書館職員) Web版OPAC(秋田大学附属図書館蔵書目録)の使い方 3. 各種データベースによる雑誌論文の検索方法 解説・演習(図書館職員) 1) 雑誌記事索引データベースの使い方 2) 医学中央雑誌データベースの使い方 4. 全国大学図書館等所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習(図書館職員) 1) WebCAT(全国大学図書館蔵書検索)の使い方 2) NDLOPAC(国立国会図書館蔵書検索)の使い方 5. インターネットの活用 解説・演習(図書館職員) 1) オンラインジャーナルの活用 2) 秋田大学附属図書館ホームページを活用した学術情報の検索 6. レポート・論文のまとめ方(附属図書館長) 具体的なテーマについてのレポートあるいは論文の典型的作成法を講義および演習する。 7. 試験(附属図書館長)					
授業に関連するキーワード	情報検索	インターネット	図書館		
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 評価：100点満点とし出席50点試験50点とする。 A 80点以上 B 70点以上80点未満 C 60点以上70点未満 D 60点未満 出席日数(試験日を除く)が2/3に満たない者は試験を受けられない。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行いません。					
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて資料を配布					

授業科目名	和文：障害と共生 I A－福祉と人権－ 英文：Mainstreaming of People with Disabilities IA:Disabilities and co-existence				時間割	月 7-8
科目コード	505-0063	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期後半
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
内海 淳	障害児教育	教文 4-511・2548				
オフィスアワー 曜日及び時間：月－金 12:00－12:50			場所：教文 4-511			
<b>授業の目的及び到達目標</b> 1. 目的 1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。 2. 到達目標 1) 障害者問題は身近な問題であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。						
<b>カリキュラム上の位置付け</b> 						
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b> 1. 障害の概念と障害者の現状 2. 障害者福祉の理念：ノーマライゼーション 3. 障害者福祉施策の特質 4. 障害者福祉の仕組みと現状 5. 障害者への人権侵害 6. 障害者の権利擁護 7. 権利擁護としての当事者活動						
授業に関連するキーワード	障害者	障害者福祉	ノーマライゼーション			
人権侵害	権利擁護	当事者活動				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b> 						
<b>教科書・参考書等</b> 						

授業科目名	和文：障害と共生Ⅱ－自立と暮らし－ 英文：Mainstreaming of People with Disabilities II: Disability and Coexistence - Independent Living -			時間割	火 3-4
科目コード	505-0070	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～3学年			開設学期等	1期
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	「障害と共生Ⅰ」と関連する授業である。				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
大城英名	教育文化学部	教文4－510・2534			
オフィスアワー	曜日及び時間：講義時間以外随時		場所：大城研究室		
<b>授業の目的及び到達目標</b>					
1. 目的 障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」のたいせつさを理解する。					
2. 到達目標 1) 障害のある人びとにとっての「自立」とは何か理解することができる。 2) 障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3) 障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。					
<b>カリキュラム上の位置付け</b>					
教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の1つとして設定。					
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>					
授業では、障害のある人びとが社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。					
第1回 オリエンテーション					
第2回 障害があってもなくても：ヘレン・ケラー、ナターシャ・クルイラトワほか					
第3回 障害があってもなくても：高橋竹山（津軽三味線奏者）					
第4回 共生への道：出会わなければはじまらない					
第5回 共生への道：自立へのはばたき					
第6回 共に育つ：母よ嘆くなかれ（パール・バック、「大地」）					
第7回 共に育つ：親、兄弟、家族の悩みと喜び					
第8回 支えあう社会：全盲の夫婦の子育て					
第9回 支えあう社会：知的障害の夫婦の結婚					
第10回 地域で共に暮らす：家族とくらす					
第11回 地域で共に暮らす：グループホーム・施設でくらす					
第12回 地域で共に暮らす：ひとりでくらす					
第13回 地域で共に暮らす：夫婦でくらす					
第14回 共に働く：あなたと一緒に働きたい					
第15回 共に働く：働くことと生きること					
*授業の実施順序および内容を若干変更するときがある。					
授業に関連するキーワード	障害	共生	ノーマライゼーション		
自立生活	地域生活	就労	リハビリテーション		
<b>成績評価の方法及び可否判定基準</b>					
出席状況 40 %、毎回の小レポート 60 %、総合的に評価し 60 点以上を合格とする。					
<b>教科書・参考書等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>パール・バック：母よ嘆くなかれ、法政大学出版</li> <li>ヘレン・ケラー：奇跡の人、新潮文庫</li> <li>松村公宏：ダウン症の子をもって、新潮文庫</li> <li>高橋竹山：津軽三味線ひとり旅、中央文庫</li> </ul>					

授業科目名	和文：人権と共生 I A－日本史上の差別と被差別－ 英文：Human Rights IA:History of Minorities in Japan				時間割	集中	
科目コード	505-0043	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	集中講義
受講対象学生	全学部 1～3 年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
熊田 亮介	文化環境		教文 3-337・2668				
オフィスアワー 曜日及び時間：木 14:30～17:30			場所：教文 3 - 337 (電話：889-2668)				
<b>授業の目的及び到達目標</b>							
1. 目的 被差別部落・ハンセン病・異民族・少数民族など、日本史上における多様で広範な差別・被差別の歴史的構造とその特質を検証し、差別解消への取り組みの歴史的経緯とあるべき社会像について考える。							
2. 到達目標 講義で取り上げる問題について、関係文献を読み、多様な視点から検討を加えて、自分の意見を取りまとめる。							
<b>カリキュラム上の位置付け</b>							
<b>授業の概要と進行予定及び進め方</b>							
1. 現代日本における偏見と差別 2～3. 沖縄から／沖縄へ ウチナーとヤマトンチュー、沖縄人にとっての歴史を検証し、その歴史的・現代的課題について考える。 4～5. ハンセン病と被差別民 ハンセン病と被差別部落の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。 6～7. アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人 アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。 8. ケガレとキヨメ、異化と同化							
授業に関連するキーワード	偏見	差別	マイノリティー				
<b>成績評価の方法及び合否判定基準</b>							
各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。							
<b>教科書・参考書等</b>							
教科書は使用せず、授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。							